

二ノ瀬町文化遺産調査レポート（神社編）

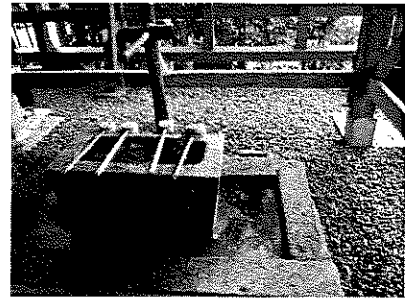
環境共生演習実習生

1 守谷神社・富士神社

森林科学科 木谷友子



惟喬親王が二ノ瀬に閑居していたという伝承があり、親王を祭神とする守谷神社がある。また、惟喬親王の母紀静子を祀る富士神社もあり、ともに崇拝されている。守谷神社、富士神社が合祀されたのは、昭和30年代の台風により、集落の山沿いにあった神社を移転したためである。

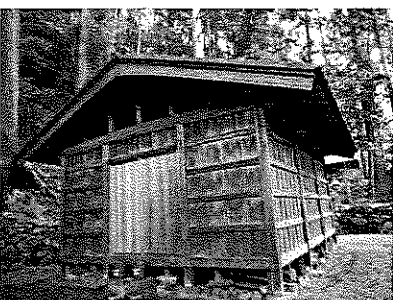


本殿



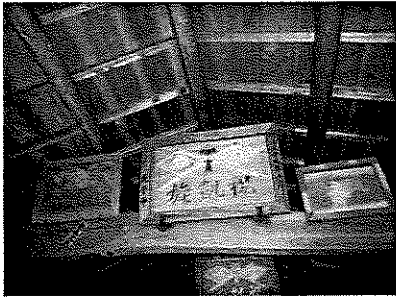
惟喬親王と親王の母紀静子が祀られている。大きさは拝殿よりもやや小さめで中には2つのお社が並んでいる。

拝殿



本殿の手前に位置していた。
木造の建物であり、中には炉もあり火を炊けるようになっていた。また壁には古い古文書なども掲げられており、天井には、日露戦争の時の凱旋祝や江戸末期に描かれたと推定される牛の絵などが掲げられていた。

活用事例1 二ノ瀬の文化遺産調査



拝殿から見て前列右側にあった灯籠。
大正十二年のもの。



拝殿から見て後列左側にあった灯籠。
文政四年のもの。



拝殿から見て前列左側にあった灯籠。
大正六年のもの。



拝殿から見て後列右側にあった灯籠。

それぞれ前列と後列の灯籠の一番上の形が少し違う。前列のものは円柱のような形だが、後列のものは少し球形である。それぞれの灯籠の作られた年代は違うが、大きく前列と後列で年代が違うため形が違うのではないと思われる。

2 守谷神社・富士神社

森林科学科 木下大輔

これらの神社は、昭和30年代の台風の際に移転されたようだ。守谷神社は、惟喬親王を祭神とし、二ノ瀬村の氏神となっている。また、富士神社は、惟喬親王の母を祭神としている。富士神社のそばに、守谷神社が移転したようだ。江戸時代には、守谷神社の祭りは山の神の祭りと同じ日に行われていたらしいが、これは、惟喬親王が木地師の祖とされることから、その原料の地を司る神と共に祭りをを行い、同じ木に関係するものとして一貫して作業者が守られるように等の祈りをしていたのではないだろうか。木材を売っていたなら、自分たちでも多少の加工は行ったであろう事からそう思われる。神社の境内には、拝殿兼集会所として使用される

活用事例1 二ノ瀬の文化遺産調査

場所があり、そこには日清・日露戦争の凱旋の絵馬も奉納されていた。他には、村で集会を行った時の参加者の名前が書かれた木札が掛けてあった。灯籠などの奉納物は、奉納された年は、ばらばらだったが、江戸時代に建てられたものが多かったように思う。これは、江戸時代後期には京都に木材を売るなどして近隣の住民が金銭面で豊かになっていったことから奉納され、破損することもなかったのものでそのまま受け継がれてきたのではないかと思われる。



写真 守谷神社・富士神社



写真 守谷神社・富士神社 本殿

3 守谷・富士神社

森林科学科 八塚 元

先の不動も、奉先堂も、お寺も、そしてこの神社も、集落に対して叡山電車の線路より西の山側にある。二ノ瀬地区は西のほうから発展して来たということだろうか？ しかし、集落は中心を流れる鞍馬川を中心に発展したと考えたほうが適当ではないだろうか？

この二社は、ひとつ屋根の下に二つの社が並んで立っている。境内には他に、作業場のような、壁が一部無い小屋と、江戸期の石灯籠があった。この作業小屋には、日露戦争で凱旋した人物の寄進した額が掲げられていた。この神社に限らず、日露戦争での凱旋や慰霊の痕跡が残る神社は多いようだ。(三宅八幡宮の鳥居など) 日清戦争に関するものが少ないように思うのは、単に戦争に動員された人数の違いによるものか？

4 惟喬親王と守谷神社

歴史学科 加藤 叡

この地区には氏神である守谷神社(森谷神社)と富士神社(図2)がある。この2つの神社はどちらも惟喬親王に関係している。そこでこの項では惟喬親王伝説も含めて述べてゆきたい。

惟喬親王は文徳天皇の皇子であり後に病を得て872年に山城国愛宕郡小野郷に隠遁したと伝わる人物であるが、二之瀬やその付近には彼にまつわる話がいくつか残されている。

惟喬親王が小野の前に隠遁したのがこの地とされ、またこの二之瀬という地区の名前の由来も惟喬親王がはじめ雲ヶ畑の一ノ瀬(市之瀬)におり、次にこの地に移ったためであるという伝承が残されており、惟喬親王がこの地区と深い関わりがあることが分かる。その惟喬親王とその母静子を祀ったのがこ

活用事例1 二ノ瀬の文化遺産調査

の地区の氏神である守谷神社（森谷）と富士神社である。惟喬親王の臣により元慶元年に建立されたとあるがこれより早い貞観14年説もある。後世に惟喬親王が祭神とされ、村人は惟喬親王社としていたらしいが天文13年に吉田家により社名を改められ守谷神社となったらしい。

この2つの神社は現在合祀されているが、これはもともと川を隔て東側の山麓にあった。しかし昭和30年代の台風により破損し元々富士神社のあった場所へと移転したらしい。

現在神社の前にある石碑にも「西 富士神社 東 守谷神社」（図3）と刻まれておりもとあった神社の方角は維持していると思われる。

惟喬親王は木地師により手挽き轆轤の考案者として職祖と信仰されており、とても林業とも関係の深い人物である。一方でこの地区の主要産業も薪等の林業であり、この地区で守谷神社が氏神とされているのもよくわかる。また江戸期においてはこの神社の祭りは山の神と同じ日にとり行われていたらしいので山の守護神の様な存在であったのかもしれない。

この神社の境内には元文3年戊午に奉納された石灯籠がのこされており、奉納者の名前も刻み込んであった。また神殿の前の拝殿（図4、5）の中には延宝期に記された古文書の写しが残され、また囲炉裏があったことから、この神社で会合をするときはこの拝殿で行われていたと思われる。この他にも日露戦争勝利記念の額も奉納されていた。

この地区は江戸時代庄屋・年寄を中心に十六人組・若衆組・庶子組・脇組という組があり、その内十六人組が村の中心であった訳だが、これも惟喬親王の家臣であったとする16家を祖とするとされておりこのような点からもこの村と惟喬親王の関係が分かる。



図2



図3



図4

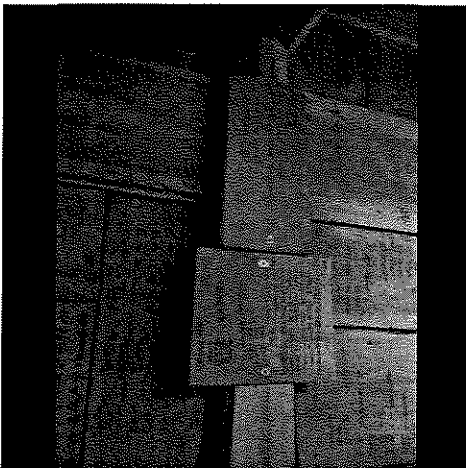


図5

5 二ノ瀬村における信仰

歴史学科 藤田 風花

二ノ瀬では以前は寺が3軒、神社が2軒存在したが、現在では寺としては浄土宗の称名院があり、神社としては守谷神社・富士神社がある。守谷神社の祭神は惟喬親王であり、富士神社は惟喬親王の母である紀静子を祭神としている。守谷神社と富士神社の合祀は、昭和30年代の台風により集落の山沿いにあった神社を移転したことによる。拝殿は正面ではなく奥にある。御堂には日露戦争の戦勝記念の絵馬や牛の絵馬があり、古文書の写しなども壁一面に飾ってある。御堂自体は明治33年に建立されたものである。



解説

東 昇

これは2013年2月12日(火)午後実施した、環境共生演習Ⅱの東担当実習生(1回生)5名のレポートである。今回は守谷神社・富士神社のみ抜き出して比較した。この他に、奉先堂跡、愛宕燈籠、大日大聖不動尊、村の景観を調査した内容が各自報告された。1回のみ調査であったが、神社の文化遺産に対して、5人5様の視点で報告をまとめ、写真を撮影している。鳥居と拝殿を撮影した写真も、社号碑をいれた場合、拝殿を中心にした場合など様々である。文章のまとめ方、構図の切り取り方にも、各人の文化遺産に対する気づきが現れており、このような学生との調査成果も、データベースに掲載する価値があると考えられる。これが地域の住民、小中高の生徒、観光客など、地域への関わり方によって、また違った視点となり、そのような記録も本データベースの範囲に入れて考えたい。

京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用
—明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧—

編 集 東 昇（京都府立大学文学部歴史学科准教授）

発 行 京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2013年3月31日

印 刷 株式会社 双林印刷社

〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル
